７月号　令和８年６月３０日発行

荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町６９４番地
〒911－0149
http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/

つなぐ力がチームを強くする



校長　　村上　尚子

梅雨明けが待ち遠しい季節となりました。雨の合間を縫っての水泳学習は、例年より実施できる日が多く、水着やタオルの入ったプールバックを抱え、嬉しそうに登校してくる子どもたちの姿に、こちらも思わず笑顔になってしまいます。

さて、現在、北中米で開催されているFIFAワールドカップ。国や言葉、文化の違いを超えて、一つのボールを追いかける選手たちの姿に、多くの人が勇気や感動をもらっています。私自身もその一人で、日本代表選手の試合、１５日(月)早朝のVSオランダ戦、２１日(日)１３時からのVSチュニジア戦は、ともにテレビで見ながら画面越しに声援を送りました。特にシュートを放った瞬間、ピンチの場面でボールをクリアした瞬間、相手チームの間を抜けてパスが通りゴールに向かう瞬間には、テレビからも、そして私自身からも、それまでとは違うボリュームの声が出てしまうほど、興奮と感動をもらっています。そしてサッカーというスポーツの面白さを感じています。

サッカーは両チーム１１人ずつで戦うスポーツです。シュートを多く決めたチームが勝利となります。しかし、そのゴールの裏には、絶妙なパスを送った仲間がいます。相手からボールを奪った選手がいます。身を挺してボールを守った選手がいます。そして、苦しい時間帯にも、試合に出ている１１人だけでなく、ベンチから声を送り続ける、声を掛け続ける選手たちの姿も印象的です。その中の一人、５大会連続出場で最年長の長友佑都選手に関するこんな記事を目にしました。

『選手たちは１１人で戦っているけど、これだけのプレッシャーがかかると孤独に感じたりするんですよね。ちょっとした怖さがたくさんある。そういうときにベンチを見て強くなれるとか、自分は孤独じゃないと思えたら、前を向いて積極的なパフォーマンスが出せる。“孤独にさせない”というのは非常に大事なポイント。僕はそこを意識して戦っています。』（2026.6.23付 Yahoo!ニュース サッカーキング編集部）

誰か一人だけの力で勝利をつかむことはできません。一人ひとりが自分の役割を果たし、仲間を信じ、支え合うことでチームの力は大きくなります。

これは学校生活にも通じるものがあります。学校教育目標「ともに創る未来へ　つなげよう！つながろう！荏田っ子」には、一人ではなく、みんなで力を合わせて共に成長していこうという願いが込められています。今年度がスタートして３か月。日々の学校生活や学校行事等を通して、学年や学級の枠を超えてかかわり合う姿、友達と励まし合う姿、地域の方々と共に笑顔で活動する姿、自ら進んであいさつする姿など多くの「つながり」の場面を見ることができました。子どもたちは周りのたくさんの人たちのかかわりの中で、確実に一歩一歩成長していると感じます。

夏休みまで約２週間。子どもたち一人ひとりの頑張りはもちろん、その頑張りを支えてくれる友達や家族、地域の方々とのつながりにも目を向けながら、“チーム荏田小”としての思いやつながりを大切に、夏休みを迎えたいと思います。今後とも本校教育活動へのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。